



祝 卒業 人生80年時代のライフ・プランを！

理事長

藤井 耐

昭和25年(1950年)、学制改革において(旧)高千穂商科大学としての歴史が始まって以来57年目、平成19年(2007年)、本学第3の学部として「人間科学部」が開設されました。平成22年度卒業生は、この3学部体制最初の卒業生であります。一瞬の四年間でした。感無量でもあり、かつ、いつまでも記憶に残る卒業生となることでしょう。

ところで、君達の誕生した昭和63年は、昭和最後の年(昭和64年1月7日までの7日間を除けば)であり、土地・株価の高騰に多くの日本人が浮かれた時代であると同時に、今日のこの暗雲立ち込める経済病理が顕在化しつつある予兆を感じ取れる時代でもありました。事実、この20年間、「平成の時代の始まりとともに発生したバブル経済の崩壊」、それに伴う「平成5年～平成15年に及ぶ就職氷河期」、「平成20年(2008年)リーマン・ショック」それに伴う「現在の金融不況」、そして今日のさらなる「就職不確実性状況」等々、異常な20年間でありました。この経済的混乱及び後遺症がいつまで続くのでしょうか。少なくとも、飛躍的な経済成長はもはや望めないのです。君たちはこの時代を生き抜いていくことになるのです。しかも、「80年」にも及ぶ長い人生を。

「生きる」ということは、断続的に襲われる「苦難」と「不安」を克服していくプロセスであるとも言えるでしょう。私達は、この克服を繰り返す過程を経つつ、新たに遭遇する「苦難」と「不安」に立ち向かう強い精神性を

醸成することができるのです。人間は、その世代々における社会的役割を担っています。君達もこの社会的役割を遂行する過程において、遭遇する「他者との人間関係上の、自らの職務遂行上要請される知識上のあるいは、家族を支えるために必要とされる経済上の等々」、様々な「苦難」・「不安」を克服するための強い精神性を醸成すると共に、今から「人生80年」のライフ・プランを描き、実践して下さい。因みに50代・60代の方々を対象とした直近の調査によれば、「退職後・老後の準備が不足している(出来ていない)」との回答者が66%にもものぼり、これは他の調査対象諸国と比較して第1位であるということです。すべての卒業生が「自立的個人」を前提とする「自他(含、親子)共生的社会人」として成長できますよう、祈念しております。





祝 卒業 - 自分の力を信じて -

学長

成田 博

卒業生の皆さん、おめでとうございます。この卒業までの道のりは決して平坦なものではなかったものと思いますが、困難を乗り越え、晴れて卒業式を迎える学生諸君一人ひとりから「卒業おめでとう！」と声をかけたいと思います。また、これまで長い間、学生諸君を支え、見守ってこられたご家族の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。

本年度は、昭和25年の高千穂商科大学設立から60周年を迎え、また、平成19年4月に本学の第3の学部として設置された人間科学部の第1期生を送り出す記念すべき年です。人間科学部は、単に知識や技術を身につけるだけでなく、人格形成、人間教育をも教育の柱とする建学の理念に立脚した本学教育の特色を具現化するために設置された学部です。今年度の卒業式は、小学校教員をはじめとする、新たな領域での活躍が期待される人間科学部の最初の卒業生を送り出す、本学の新たな発展のスタートとなるものといえるでしょう。

大学を卒業するという事は、長い人生における1つの節目と言えますが、途中でくじけることなく、1つの目標を達成したということに大きな意義があるといえます。知識、技術、能力そして多様な経験や支えてくれた仲間など、最後まで成し遂げたゆえに得られた多くのものがあるはずです。それらは皆さんを人間的に大きく成長させる源泉となったものであり、将来にとっての大きな自信、財産、そして強い支えとなることでしょう。高千穂大学

で培った力を信じ、仲間を信じ、自信を持って社会への一歩を踏み出してもらいたいと思います。

現在の日本は、景気回復の実感は無く、先行きの見えない不安定な状況が続いており、多くの皆さんが就職活動において大変な苦勞をされたものと思います。しかし、このような時代であっても、若い皆さんは将来への希望や夢を抱き、今よりも素晴らしい社会の構築に向けて努力を継続してもらいたいと思います。個々の目標に違いはあっても、多くの若者が自分の目標を設定してその実現に向けて努力を継続していくことは、きっと素晴らしい社会へと向かう力を生み出すはずで、これからの社会人生活においても、目標を設定し努力を積み重ねていくことはとても大切なことであり、そのことが皆さんに対して更なる「自信」を授けることとなるでしょう。高千穂大学で培った力を信じ、それぞれの目標実現に向けて邁進してくれることを期待しています。

社会ではこれまで以上に苦しい場面に遭遇することもあるかもしれません。また、社会人となっても、知識・技術、そして人間的にも更なる成長が求められます。高千穂大学の卒業生としての誇り、そして努力を継続する姿勢を忘れることなく、新たな活躍の場において信頼される人材として、皆さんが充実した日々を過ごされることを心より祈念しています。



「勇気と自信をもって 世界に羽ばたけ！」

同窓会会長

福田 昌夫

高千穂大学創立60周年という節目に卒業する皆さん、卒業おめでとうございます。この4年間本当に悔いのない大学生活を送ってきたでしょうか。昨今の厳しい経済環境の中、アルバイトに追われ、或いはデフレ不況による就活競争に精力を使い果たしてしまい、真に学問に打ち込んだ日々は非常に少なかったのではないかと同情しています。

しかし、今日からは立派な社会人として巣立って行って貫きたいと願っています。歴史と伝統のある高千穂大学で学んだキャリアと自信をもって大いに活躍して下さい。確固たる目的をもって、全力で努力すれば、将来必ず実現できます。

世界はチュニジアを発端にアラブ系諸外国が、独裁反対民主化を叫んで動き出しています。一党支配の中国と北朝鮮にも兆候が出てきています。この様に、世の中を変える原動力は若者のパワーです。これまでと同じ快適な生活を続けるためには、まず自分を変えなければなりません。自分を変えるためには、継続して自己研鑽を積んでいかねばなりません。学問にしても、大学期間だけの勉強ではありません。極端にいえば一生が勉強なのです。読書を含め、視野を広げて不断の努力の積み重ねが肝要なのです。

また、生きるためには、まず働け！です。「働かざる者は食うべからず」というレーニンの言葉は終戦後、焼跡から立ち上がった日本人全部の言葉でした。そして、当時の人々の懸命な努力のおかげで、今日の隆盛があるの

です。決して自己を甘やかしてはいけません。

皆さんも自分の食ひ扶持は自分で稼ぐ覚悟をもち、今後親の援助に頼らないという強い決意で行動して下さい。一人立ちして、智恵を惜しまずしほり出し、そして汗を流す事によって、人間として大きく成長していくのです。人間社会にあっては何事も、礼儀作法から始まり、人に恥じない倫理観を体得してこそ、高度の人間社会が形成される訳です。皆さんももう一度自己反省をしてみて、常に足りない所を満たすべく努力して下さい。

最近、日本がGDPで中国に抜かれ、第3位に下がったと報道されていますが、人口が13億と日本の10倍以上の中国が上位になるのは当然で、1人当たりのGDPは未だ日本の10分の1以下で、貧富の格差が非常に大きいのが現状です。しかし、今後経済的に大きく伸びるに違いありません。

日本は資源の少ない国ですが、頭脳、即ち技術があります。今後もこの技術力を武器に世界に向け発展していくべきですし、貴方がたの活躍の場もそこにある筈です。混沌として、先の見えない現代社会の中で、何事にも充分熟慮の上、決断し、勇気をもって挑戦して下さい。

人生80年のうち、チャンスは3度あるといわれています。一度くらい大きく失敗してもへこたれず、次があることを信じるのです。ただし、同じ失敗は繰り返してはいけません。必ず原因を分析し、対処方法を身につけて下さい。

皆さんの輝かしい将来を信じ、幸運を祈っています。



在学生へ贈る言葉

第14代学友会会長
商学部

見玉 正徳

高千穂大学に入学してから今日までに至る4年間は時間が経つのがものすごく早く感じました。

4年前の入学式、私たち新入生に藤井理事長が熱いメッセージを送って下さったことは今でも鮮明に覚えています。入学当初は高校と大きく環境が変わり、不安の方が大きかったですが、それでも同期の友人、先輩、後輩、先生方、事務職員の方など様々な人と出会うことで自分の視野が広がり、様々な可能性に挑戦でき、本当に充実した大学生活を送ることができました。そんな楽しいことも辛いことも含めて充実した4年間の大学生活で学んだことを最後に私から在学生の皆さんに贈りたいと思います。

それは「感謝できる人」になってもらいたいという事です。2年次から大学の学生組織に所属し、初めて本格的なチーム作業を知りました。自分がうまくいかない時は先輩や友人が手助けしてくれたり、些細なことでも気にかけてくれる友人がいたおかげで私は人の温かさに改めて感動し、相手に対してしっかり感謝をすることの大事さを実感しました。感謝もただ自分の内で思っているだけでは相手に伝わりません。最初は少し照れてしまうかもしれませんが、少しの勇気で自分も相手も温かい気持ちになれるので、在学生の皆さんも是非実践してほしいと思います。

最後になりますが、高千穂大学での4年間を支えて下さった数多くの方にこの場を借りて感謝の気持ちを述べたいと思います。そして在学生の皆さんが充実した大学生活が送れることを心から願っております。





答 辞

卒業生代表
商学部

野澤 恵美

冬の寒さも和らぎ、穏やかな春風が新しい季節の到来を感じさせる今日この佳き日に、私たちは卒業の日を迎えることができました。

本日は、藤井理事長、成田学長をはじめ、諸先生方、御来賓の皆様、保護者の皆様の御臨席を賜り、私たち卒業生のためにこのような盛大な卒業式を挙げていただき、誠にありがとうございます。卒業生を代表して御礼申し上げます。

思い起こせば4年前、私たちはそれぞれ大きな期待と不安を胸に入学しました。初めは右も左もわからない私たちでしたが、先生方や新しい友人たちとの出会いによって、様々な不安が消え、大学での生活に慣れていくことにより、日々の充実感を得られるようになりました。

卒業生の皆さんは、自分自身の大学生活を振り返ってみてください。皆さんは様々な経験をしてきたことと思います。今日、卒業できるということは、それらを乗り越えたということであり、そのすべての経験が自分自身の自信や誇りになっているはずですよ。

私にとって、高千穂大学での4年間はあっという間に過ぎたように感じます。1年生のころは、上京して新生活が始まったばかりで、大学の授業についていけるかや、友人ができるかなど期待と不安でいっぱいでした。しかし、フレッシュャーズ・オリエンテーションや授業を通じて素晴らしい友人と出会うことができました。一緒に頑張れる友人に出会えたから、学業にも一生懸命に取り組むことができました。学業に力を入れて地道に努力を重ねた結果、色々な知識を身に付けることができました。この高千穂大学で学んだことは、これから

の社会で活躍するための糧になると思います。大学生活は楽しかったことや苦しかったことがたくさんありましたが、様々な経験が私を強くしてくれて、有意義な学生生活を送ることができました。

また、私がこうして大学生活を送れたのは、家族の支えがあったからです。親元を離れて生活してみて、改めて家族の温もりを知ることができました。家族には今まで色々とお世話になってきましたので、これからは恩返ししていきたいと考えています。普段は照れ臭くて家族に「ありがとう」と言い難いですが、今日はきちんと伝えようと思います。今日は旅立ちの日なので、卒業生の皆さんもいつもお世話になっている人に感謝の気持ちを伝えましょう。

今日この日をもって、私たちはたくさんの思い出を胸に高千穂大学を卒業し、それぞれの道を歩み始めます。これから今までに経験したことのない程の困難に直面することがあるかと思いますが、そのようなときは、高千穂大学で学んだことを誇りに、学風の指針である「常に半歩先立つ進歩性」をもって、4年間で得た知識や経験、精神力を活かし、乗り越えていきたいと思っています。

最後に、今日まで私たちに温かい励ましと御指導をくださいました藤井理事長、成田学長をはじめとする諸先生方、様々な形で支えてくださいました事務職員の皆様、そして温かく見守り、どのようなときも支えてくれた家族に、重ねて心より御礼申し上げますとともに、後輩の皆様方のさらなる御健闘と御活躍を心よりお祈り申し上げ、高千穂大学のより一層の発展を願って、答辞とさせていただきます。



卒業生へ贈る言葉

第15代学友会会長
人間科学部3年
かずし
渡辺 一充

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。この高千穂大学で過ごした4年間は皆様にとってどのような日々でしたか。その日々の中には、楽しいこと、辛いこと、嬉しかったこと、悲しかったことなどたくさんの思い出が詰まっていることなのでしょう。その日々が卒業生の皆様にとって心のよりどころになっていることと思います。

私達後輩は、いつも先輩方のお世話になってばかりいました。入学したての頃のフレッシュオリエンテーションでは、授業などの大学生活における不安を聞いて頂き、とても嬉しかったのを覚えています。ゼミではどのような活動をすればいいのかわからず、右往左往していると、声をかけて下さり、どうすればいいのかわかしく教えて頂きました。部活動においては時に厳しくありながらも、目標に向かって真剣に取り組んでいる先輩方が私達後輩の道標となって下さいました。その

ほかにもたくさんの思い出が私達の中にはあります。先輩方にも私達と一緒に過ごした大学生活が、良い思い出として頂ければとても嬉しく思います。

これから社会人としてそれぞれの道を行く皆様には、これまで以上に大きな壁にぶつかってしまうこともあると思います。そんな時はこの高千穂大学で身に付けたものを思い出して下さい。それが卒業生の皆さんを支えてくれる力となるはずです。

最後となりますが、多くの先輩方から受け継いだ高千穂大学をよりよいものにするようこれからも努力していきます。ですから、そんな後輩達に会いには是非高千穂大学へ足を運んで下さい。後輩一同心よりお待ちしております。そして、卒業生の皆様のご健闘をお祈りし、贈る言葉とさせていただきます。今まで本当にありがとうございました。

TAKACHIHO UNIVERSITY

